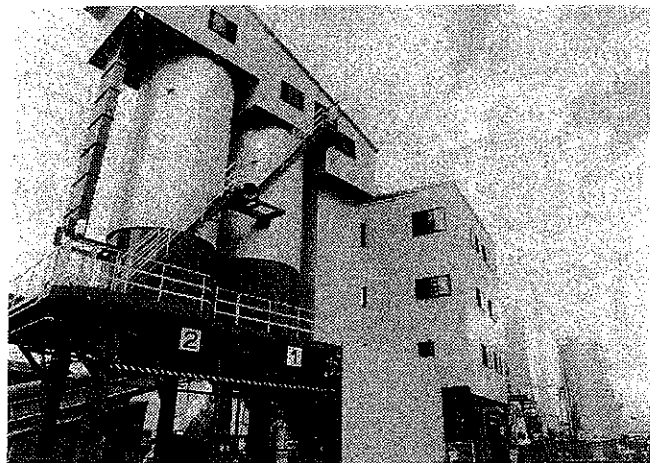


京都のプラント都市ガス化

CO₂排出量30%抑制

NIPPO



きょう火入れ式を行うプレミックスアスのプラント

NIPPOは、子会社のプレミックスアス（京都府長岡京市、庭崎啓伸社長）が運営するアスファルト合材プラントに最新鋭の環境設備を導入した。12日に火入れ式を行う。燃料を重油から都市ガスに転換するとともに、燃費効率の良い高性能の「ハイブリッドバーナー」を取り入れることで、合材製造時に発生する二酸化炭素（CO₂）排出量を従来に比べて30%抑制できるといふ。同社は今後も、プラント更新にあわせて環境整備や環境投資を進めていく考えだ。

同社は、合材事業を展開する上での空白地帯だった京都南部と大阪北部の拠点として、04年に合材販売と廃材の中間処理を手がけるプレミックスアスを買収した。

72年創業のプレミックスアスのプラントは老朽化しており、今回、5億6000万円を投入して環境配慮型への設備更新を行った。

同社では、地球環境問

題に対応して、CO₂排出量削減を目的にプラントを順次更新している。プレミックスアスのプラントは都市ガス導入では10番目、また、子会社のニッポメックス（さいたま市）が開発するハイブリッドバーナーの導入で、通常の合材プラントの場合、骨材を加熱乾燥する際に使用する重油量は1ト当たり約10ト。合材1トを製造するのに約30トのCO₂が発生しており、その削減が課題となっていた。

プレミックスアスのプラント製造能力は、新規合材が1時間90ト、再生合材が同60ト。合材サイロの貯蔵量は計200ト。

日刊建設工業新聞
平成22年1月12日掲載

CO₂排出3割低減

NIPPO 10カ所に導入

NIPPOは、合材工場の都市ガス化を加速する。従来の燃料だった重油に比べて割高になるが、二酸化炭素(CO₂)排出を抑制し、環境に配慮する。完全子会社のプレミックスアス(京都市長岡京市)のプラントを都市ガス化、同社の都市ガス導入工場は10カ所目になった。高性能のバーナも導入、CO₂排出量を3割低減する。同プラントは、12日に火入れ式を行う。

同社は、2007年ごろから環境対策としてプラントの都市ガス化を進めている。09年度は、今回のプレミックスアスのほか、足立合材工場(東京都足立区)も都市ガス化する。都市ガス化は、関西では2工場目で、残り8工場はすべて首都圏。自治体などは、独自にCO₂排出量の規制強化を検討しており、大量のエネルギーを使うプラントもその対策が急務となっている。12日に火入れ式を行うプレミックスアスII写真IIは、同社の空白地域だった京都南部と大阪北東部の拠点として、04年に買収した。1972年の創業で、施設が老朽化していたことなどから、都市ガス化することにも、最新鋭の設備を導入する。プラント本体の更新とともに、廃材ヤードを拡張した。プラントのミキサー能力も、1バッチ当たり1・5トンから2トンに高めた。また、同社として20工場目となる高性能の「ハイブリッドバーナ」を導入した。

総投資額は約5億6000万円。

都市ガス化は、バーナ費の最大3割を補助する国の制度を利用しながら更新を進める。CO₂排出量を大幅に低減することが可能だが、一方で導入は都市ガスを利用できる地域に限定されるため、「都市ガス化できるのは、残り5-10工場」(同社)という。

建設通信新聞
平成22年1月12日掲載



京都のプラント火入れ

環境配慮へ都市型化

年度内に
足立工場 設備更新でCO₂削減

NIPPO

NIPPOは、100
%子会社のプレミックス
アス（京都府長岡京市、
庭崎啓伸社長）が運営す
る合材工場のアスファル
トプラント設備を更新
し、きょう12日に安全祈
願式・火入れ式を行う。
今回、高効率のハイフリ
ットガスバーナー設備を
導入した。総投資額は約
5億6000万円。
今後もアスファルトプ
ラント更新に合わせて環
境整備や環境投資を進め
る考え。特に東京都は、
10年度からエネルギー消
費量の多い事業所に対す
る総量削減を義務付け
る。このため関東第一支

店管内の足立合材工場
（足立区）のハイフリッ
ト化を今年度中に行う予
定である。

同社は、全国で157
か所のアスファルト合材
工場を運営するが、合材



京都の合材工場

製造で生じるCO₂排出
量を削減するため燃料を
重油類から都市ガスへの
変更や省エネ型設備機器
の導入を進めている。プ
レミックスアスの工場
は、同社では10か所目の
都市ガス導入工場、20か
所のハイ
フリットバ
ーナー導入
工場とな
る。

南部と大阪北東部の拠
点として買収した。72年
の創業でアス合材販売
と廃材（がれき類）の中
間処理を行ってきた老
舗。老朽化したアスファ
ルトプラントを更新し
たもので、最新鋭の設備
を導入し、燃料を重油か
ら都市ガスに転換し、環
境に配慮することも、
サービス向上を図る狙
い。

アスファルトプラント
は骨材の加熱乾燥で燃料
（重油約10㏩/ト）を使用
するため、従来の重油使
用の場合、合材トン当た
り約30㏩のCO₂排出抑
制に繋がる。今後も条件
が整えば、順次、設備を
更新していく計画だ。

建設産業新聞
平成22年1月12日掲載